

ノウサギの森林被害防止のための誘引及び捕獲試験について

近畿中国森林管理局 和歌山森林管理署 係 員 ○安田 真菜
森林土木指導官 児玉 浩稔

1 課題を取り上げた背景

シカ及びノウサギは植栽木の枝葉や樹皮を食害し、植栽木の生長阻害や枯死を引き起こします。

シカによる被害への対策が積極的に進められている一方、ノウサギによる被害については深刻な問題として扱われてきませんでした。しかしながら、ここ数年でノウサギ被害が顕在化しつつあることを受け、造林地におけるノウサギ被害対策への関心が高まっています。

ノウサギによる苗木の食害がこれからの林業にとって大きな問題になるのではないかと考えたため、課題として取り上げました。

2 取組の経過

使用されていない森林作業道は、野生動物にとって見通しと足場のよい大きな獣道となっていると仮定し、ノウサギの誘引に適した餌を特定するための誘引試験を行いました。その後、誘引試験において効果的であると判断した誘引物を用いた捕獲試験を実施しました。

誘引試験では、3m幅の森林作業道上に誘引物を数種類ずつ設置し、ノウサギがどの餌を好んで採食するか等をセンサーカメラで確認しました。その結果、カラスザンショウ、クズ、ネムノキの3種類をよく採食していることが分かりました。また、冬期には柑橘類の剪定枝やブロッコリーの軸等でも誘引できます。



(写真1：ノウサギN型誘引捕獲わな)

続いて捕獲試験では、森林作業道にN型にネットを張りノウサギを誘引するわなを作成し、「ノウサギN型誘引捕獲わな」（以下、「N型わな。」）と名付けました。ノウサギの狭いところに入ろうとする習性を利用して、誘引物をN型わなの中央に設置し、その先にあるくくりわなに誘引する形になっています(写真1)。くくりわなについては、針金製、磯釣り用ワイヤー製の首くくりわなに加えて、より感度を高めた踏み込み式の足くくりわなの2種類を試行しました。また、ネットを飛び越えられることがあったことから、高さを1mに改良しました。

3 実行結果

捕獲試験を行った結果、ノウサギがくくりわなにかかった様子をセンサーカメラによって計8回確認できました。内3回は現地で個体を確認しましたが(写真2)、残り5回は、くくりわなが切られたり、イタチなど他の動物に持って行



(写真2：ノウサギを捕獲した様子)

かれてしまい、現地に確認に行ったときにはノウサギの姿はありませんでした。

くくりわなを踏み込み式に変えてからは、かかった後にわなをかみ切られて逃げられるということはなくなりました。

4 考察

以上の誘引試験及び捕獲試験の結果から、カラスザンショウ、クズ、ネムノキなどの山にある植物を用いてノウサギをN型わなへ誘引できることが分かりました。また、それにより、森林作業道を獣道と仮定して、経験や知識が少なくても、「ノウサギN型誘引捕獲わな」によってノウサギを捕獲できることが分かりました。